

令和5年度

事業計画

令和5年

公益財団法人 五島美術館

◆令和5年度 事業計画書

I. 五島美術館(公益目的事業①)

1. 展示事業

1-1-1. 展覧会名とその概要

(1) [館蔵]春の優品展 ―古今和歌集を愛でる―

2023年4月1日[土]—5月7日[日]

『古今和歌集』は、平安時代前期、醍醐天皇の勅命によって編纂された最初の勅撰和歌集である。五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、『古今和歌集』を書写した平安・鎌倉時代の古筆切を中心に『古今和歌集』に関わる歌仙絵・古典籍・近代書など約50点を選び展観する(会期中一部展示替あり)。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻 鈴虫一・鈴虫二・夕霧・御法」

4月29日[土・祝]—5月7日[日]

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(2) [館蔵]近代の日本画展

2023年5月13日[土]—6月18日[日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「人物表現」を中心に、横山大観、下村観山、川合玉堂、上村松園、鏑木清方、松岡映丘、安田靉彦、前田青邨など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約40点を選び展観する。特集展示として館蔵の棟方志功やゆかりの人物の作品と宇野雪村コレクションの文房具も同時公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [館蔵]古鏡展 ―めでたい鏡の世界―

2023年6月24日[土]—7月30日[日]

古来、中国では鏡は吉祥をもたらす化粧道具であり、古墳時代の日本列島に伝わって権力の象徴となり、近世以降は文人の愛玩の対象となった。五島美術館の収蔵品から中国や古墳時代の古鏡約60面を展観する。特集展示として大東急記念文庫収蔵の、歴史上の著名な人物による書き入れ本や自筆資料なども同時公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(7月17日は開館)、7月18日[火]

館内整備のため休館＝2023年7月31日[月]—8月25日[金]

(4) [館蔵]秋の優品展 ―白・黒・モノクローム―

2023年8月26日[土]—10月15日[日]

五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、「白・黒・モノクローム」をキーワードに水墨画や禅画、書、陶芸など様々な美意識を表現した名品約50点を展観する(会期中一部展示替あり)。墨線の濃淡や白色と黒色の“せめぎあい”から生まれる美の世界を紹介。特集展示として館蔵の日本陶磁コレクションも同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻 五島本」10月7日[土]—10月15日[日]

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9月18日・10月9日は開館)、9月19日[火]、10月10日[火]

(5) [特別展]古伊賀 ―破格のやきもの―

2023年10月21日[土]—12月3日[日]

桃山時代から江戸時代にかけて、現在の三重県伊賀市一帯でつくられたやきもの「古伊賀」。歪みなどの作為の強い造形と窯中で偶然に生まれる景色は、茶の湯の世界で高く評価されている。本展では、茶陶を中心とする古伊賀の名品と、窯跡出土資料などを展観し、時代の転換期が生み出した「破格の造形」をご覧いただく。

一般1400円／高・大学生1100円／中学生以下無料 休館日＝毎月曜日

特別内覧会・レセプション(予定)＝2023年10月20日[金]

(6) [館蔵]茶道具取合せ展

2023年12月13日[水]—2024年2月12日[月・振]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約70点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、織田信長(1534～82)を中心とした武将や大名ゆかりの茶道具の取合せを展観する。特集展示として懐石道具を中心とした茶の湯の漆芸を同時公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1月8日・2月12日は開館)、12月25日[月]—1月4日[木]、1月9日[火]

(7) [館蔵]中国の陶芸展

2024年2月20日[火]—3月31日[日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約60点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000年にわたる中国のやきもの歴史を展望する。特集展示として館蔵の古鏡コレクションも同時公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

1-1-2. 入館料

入館料については、本年度から館蔵展、特別展ともに改定を実施する。

[館蔵] 一般1000円→1100円／高・大学生700円→800円

[特別展] 一般1300円→1400円／高・大学生1000円→1100円

1-2. 入館者数(目標)

年間の入館者数は、新型コロナ禍により、2020 年度、2021 年度と低迷を続けてきたが、2022 年度には 4 万人台まで回復する兆しが表れている。2023 年度については、新型コロナ禍前に対して 85%程度まで回復することを前提とし、年間では 5 万人台の到達を目指す予算とする。

(単位:入館者=人、開館日=日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) [館蔵]春の優品展 —古今和歌集を愛でる— <2023年4月1日[土]—5月7日[日]>	6,610	626	7,236	381	7,617	32	238
(2) [館蔵]近代の日本画展 <2023年5月13日[土]—6月18日[日]>	6,990	435	7,425	190	7,615	32	238
(3) [館蔵]古鏡展 —めでたい鏡の世界— <2023年6月24日[土]—7月30日[日]>	3,454	517	3,971	109	4,080	32	128
(4) [館蔵]秋の優品展 —白・黒・モノクローム— <2023年8月26日[土]—10月15日[日]>	5,348	449	5,797	187	5,984	44	136
(5) [特別展]古伊賀 —破格のやきもの— <2023年10月21日[土]—12月3日[日]>	10,606	1,982	12,588	618	13,206	38	348
(6) [館蔵]茶道具取合せ展 <2023年12月13日[水]—2024年2月12日[月・振]>	5,814	650	6,464	153	6,617	45	147
(7) [館蔵]中国の陶芸展 <2024年2月20日[火]—3月31日[日]>	4,315	428	4,743	184	4,927	36	137
【合計】	43,137	5,087	48,224	1,822	50,046	259	193

1-3. 付帯事業

展示事業に関連して、美術館と展示・収蔵品を全国の不特定多数の方に紹介する効果がある東急グループの「五島美術館名品集」カレンダーの制作・監修や「源氏物語絵巻」をはじめ展示・収蔵品に因んだオリジナルグッズなどの制作・監修、館内ミュージアムショップ等での販売も実施する。

2. 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行なう。本年度は「伊勢物語切 伝 藤原公任筆」「重要文化財 青磁鳳凰耳瓶」を修復予定。

(4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また、収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。併せて防虫・防黴のため IPM(総合的有害生物管理)を実施する。

(5) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(6) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、文化庁企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、源氏絵データベース研究会、関西中国書画コレクション研究会)。
- ・科学研究費助成事業への参加。
- ・「世田谷区文化・芸術振興計画」検討委員会への参加。

(7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、全国美術館会議、私立美術館会議、東洋陶磁学会、漆工史学会などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(8) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの拡充を目指す。また、館内での通信環境を再整備し、フェイスブック、ツイッターなど SNS の有効活用を促進する。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(10) 日本伝統工芸展への協賛

公益社団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

(11) 国等各種公共機関・団体・大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の美術教育事業、専門機関への助言、大学への職員の派遣等、美術館で必要と認められる対外活動を行なう。

3. 普及事業

(1) ギャラリートーク(展示解説)ー 一般入館者対象

・[館蔵]春の優品展 ー古今和歌集を愛でるー

----- 2023年4月12日[水]、4月19日[水]、5月2日[火]、5月7日[日]の4回

・[館蔵]近代の日本画展

----- 2023年5月24日[水]、5月31日[水]、6月8日[木]の3回

・[館蔵]古鏡展 ーめでたい鏡の世界ー

-- 2023年6月27日[火]、7月5日[水]、7月11日[火]、7月19日[水]、7月26日[水]の5回

・[館蔵]秋の優品展 ー白・黒・モノクロームー

---- 2023年8月31日[木]、9月21日[木]、10月11日[水]、10月15日[日]の4回

・[特別展]古伊賀 ー破格のやきものー

----- 未定

・[館蔵]茶道具取合せ展

----- 2024年1月16日[火]、1月31日[水]、2月7日[水]の3回

・[館蔵]中国の陶芸展

----- 2024年2月22日[木]、3月6日[水]、3月28日[木]の3回

* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(2) 茶会(当館主催)ー茶の友会会員対象

・第1回=2023年11月16日[木]ー19日[日]の4日間

・第2回=2024年 3月14日[木]ー17日[日]の4日間

* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(3) 陶芸講座(当館主催)ー美の友会会員対象

・第1回=2023年5月27日[土]・28日[日] 予定(定員未定)

・第2回=2023年9月17日[日]・18日[月・祝] 予定(定員未定)

・第3回=2024年1月27日[土]・28日[日] 予定(定員未定)

(4) 美の友会月例美術講座(当館主催)—美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月2~3回)として(本年度27回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇書跡鑑賞シリーズXVI「古今和歌集の古筆」

『古今和歌集』は平安時代前期に醍醐天皇(885~930)の勅命によって編纂された日本で最初の勅撰和歌集である。本講座では、平安時代に書写された代表的な写本を取り上げ、美しい仮名の書や料紙の魅力を分かりやすく解説する(8月は休講)。

〈担当=五島美術館学芸部 佐々木佑記〉

- | | | |
|-----|----------------|-----------------|
| 第1回 | 2023年 4月 1日[土] | さまざまな『古今和歌集』の古筆 |
| 第2回 | 2023年 5月 6日[土] | 高野切古今集 |
| 第3回 | 2023年 6月 3日[土] | 寸松庵色紙 |
| 第4回 | 2023年 7月 1日[土] | 関戸本古今集 |
| 第5回 | 2023年 9月 2日[土] | 本阿弥切 |

◇陶磁鑑賞シリーズXI「五島美術館の陶磁器ベスト5」

五島美術館は約150件の陶磁器を収蔵している。この講座では、その中から五島美術館を代表する名品5点を選び、画像で紹介し、産地・制作年代・技法について現在わかる限りの情報のほか、収蔵の経緯、作品にまつわるエピソードや鑑賞のポイントを解説する(8月は休講)。

〈担当=五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

- | | | |
|-----|-----------------|-----------------------------|
| 第1回 | 2023年 4月 8日[土] | 慶太翁愛蔵の名碗—重要文化財 鼠志野茶碗 銘 峯紅葉— |
| 第2回 | 2023年 5月 13日[土] | 墨跡にあう花生—重要文化財 青磁鳳凰耳花生— |
| 第3回 | 2023年 6月 10日[土] | 稀少な透彫の水注—重要文化財 五彩金襴手透彫水注— |
| 第4回 | 2023年 7月 8日[土] | 君の名は?—重要文化財 古伊賀水指 銘 破袋— |
| 第5回 | 2023年 9月 9日[土] | 手になじむ名碗の再評価—黒織部杢形茶碗 銘 わらや— |

◇特別展鑑賞シリーズIV「古伊賀への道」

古伊賀は、重要文化財「古伊賀水指 銘 破袋」のような歪んだ豪放な造形が特徴である。茶の湯の世界で高く評価されているが、生産年代など不明な点が多い。本講座では、「特別展古伊賀」(2023年10月21日—12月3日)に向けて、謎多き古伊賀の世界をともに巡る。

〈担当=五島美術館学芸部 菅沢そわか〉

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------|
| 第1回 | 2023年 4月 15日[土] | [入門編] 古伊賀の名品とやきもの基礎知識 |
| 第2回 | 2023年 5月 20日[土] | [初級編] 古伊賀の生産地と「〇〇伊賀」 |
| 第3回 | 2023年 6月 17日[土] | [中級編] 茶人と古伊賀 |
| 第4回 | 2023年 7月 15日[土] | [上級編] 残された謎と古伊賀検定(まとめ) |

◇古典籍鑑賞シリーズⅤ「蔵書家と蔵書印」

蔵書印は書物の伝来を知るための貴重な情報であると共に、書物の価値を高からしめる要素の一つでもあった。本講座では大東急記念文庫の蔵品を、蔵書印に焦点を当てて紹介する。印の独特の字体(篆書)に関心のある方も歓迎(11月は休講)。

〈担当＝大東急記念文庫学芸部 長田和也〉

- 第1回 2023年10月7日[土] 大東急記念文庫の古典籍概観
- 第2回 2023年12月2日[土] 金沢文庫印と『白氏文集』
- 第3回 2024年1月6日[土] 寺社の蔵書印
- 第4回 2024年2月3日[土] 個人の蔵書印①—学問と蔵書—
- 第5回 2024年3月2日[土] 個人の蔵書印②—書物の収集—

◇絵画鑑賞シリーズⅩⅢ「絵巻の鑑賞—紫式部日記絵巻」

本講座では「紫式部日記絵巻」の絵に焦点を絞り、研究史を踏まえつつ、鎌倉時代の美術作品とも比較しながら、あらためて現存する「紫式部日記絵巻」の特徴と美術史における位置付けについて考えることを試みる。2024年、テレビドラマでも注目の紫式部。最終回では、絵に描かれた紫式部を中心に紹介する(11月・12月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 下山來夏〉

- 第1回 2023年10月14日[土] 「紫式部日記絵巻」絵画研究史の要点
- 第2回 2024年1月13日[土] 蜂須賀家本・藤田家本
- 第3回 2024年2月10日[土] 旧森川家本・旧久松家本
- 第4回 2024年3月9日[土] 紫式部を描いた絵

◇考古鑑賞シリーズⅡ「古鏡への視点」

鏡は化粧道具の一つだが、時代や社会を映すものでもあった。時に福をもたらし、邪を払う吉祥の器物であり、時に権力の象徴となった。近世以降は、文人の収集対象となり、古代文字の研究対象ともなった。五島美術館の収蔵品を通して、古鏡の世界を覗く(10月・11月・2月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 林克彦〉

- 第1回 2023年9月16日[土] 創作模倣の鏡(三国時代)
- 第2回 2023年12月16日[土] 権威の象徴(古墳時代)
- 第3回 2024年1月20日[土] 華麗な鏡(唐時代)
- 第4回 2024年3月23日[土] 鏡を愛でる—収集家と鏡—

(5) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 日本画を知ろう」(日程未定)
- ② 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

(6)ミュージアム・コンサート

音楽を通じて、芸術・文化に触れる機会を提供し、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

- ① クアルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会 -----2023年6月28日[水]
- ② 長唄演奏会—和のこころを聴く -----2023年9月27日[水]

(7)茶室特別公開

公開日＝2023年5月25日[木]（「館蔵 近代の日本画展」期間中）

2024年2月1日[木]（「館蔵 茶道具取合せ展」期間中）

*入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説を学芸部が行なう。

(8)東急グループとの連携事業

東急グループとの連携事業を推進することにより、美術館や展覧会に対する理解を深める様々な機会を提供する。

- ① 特別鑑賞会「東急グループ感謝のつどい」開催への協力
- ② 東急グループ主催の社会貢献活動（とうきゅうキッズプログラム、キラリプラスカレッジ等）への協力
- ③ 東急文化村「MY Bunkamura」とのタイアップ企画の実施
- ④ 「東急ロイヤルクラブ」との連携イベントの実施
- ⑤ 東急グループ「五島美術館名品集」カレンダーの制作・監修（展示事業1-3参照）

(9)他館等との連携事業

展示内容の親和性が高い根津美術館、三井記念美術館、近隣の世田谷美術館をはじめ、他の美術館・博物館など文化施設等との連携事業を積極的に推進する。

(10)青木村との連携事業

五島慶太の生誕地である長野県小県郡青木村の「五島慶太未来創造館」との連携を推進する。

(11)インバウンド需要への対応

インバウンド需要の回復に対応するため、今後も引き続いて館内施設やホームページの表記等の具体的対策を進めていく。

(12)4K映像の上映

展示公開期間に制約がある国宝「源氏物語絵巻」の4K映像の常時上映を行ない、遠来の来館者の期待に応じていく。

以上

II. 大東急記念文庫(公益目的事業②)

1. 閲覧事業

(1) 図書閲覧

文学・歴史等の学術研究に資するため、大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう(許可制)。

(2) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

2. 調査・研究・保存事業

(1) 図書調査

収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(2) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)や、必要な場合は古典籍資料を購入する。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、収蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として本年もIPM(総合的有害生物管理)を実施する。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの副本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多経』(鎌倉中期写本)等を撮影する。

(5) 図書修理

新収蔵資料の帙箱の新装、未表装資料の修理・表装を行なう。

(6) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第29回配本第15巻「国史・古記録・寺誌」、第30回配本第17巻「美術」、第31回配本第18・19巻「古文書・名家筆蹟」の刊行準備をする。

- ・機関誌「かがみ」第 54 号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

(7) 普及

- ・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(8) 国等各種公共機関・団体、大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言、大学への職員の派遣等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

以 上

収支予算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[3,310,000]	[9,310,000]	[△ 6,000,000]
特定資産運用益	[1,000]	[2,000]	[△ 1,000]
公益事業収益	[105,589,000]	[105,106,000]	[483,000]
受取補助金等	[0]	[500,000]	[△ 500,000]
受取寄付金	[249,038,000]	[69,038,000]	[180,000,000]
雑収	[51,000]	[54,000]	[△ 3,000]
経常収益計	357,989,000	184,010,000	173,979,000
(2) 経常費用			
事業費	[339,703,000]	[317,496,000]	[22,207,000]
管理費	[34,716,000]	[31,541,000]	[3,175,000]
経常費用計	374,419,000	349,037,000	25,382,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 16,430,000	△ 165,027,000	148,597,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 16,430,000	△ 165,027,000	148,597,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 16,430,000	△ 165,027,000	148,597,000
一般正味財産期首残高	649,712,128	814,739,128	△ 165,027,000
一般正味財産期末残高	633,282,128	649,712,128	△ 16,430,000
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	[△ 69,038,000]	[△ 69,038,000]	[0]
当期指定正味財産増減額	△ 69,038,000	△ 69,038,000	0
指定正味財産期首残高	3,494,846,905	3,563,884,905	△ 69,038,000
指定正味財産期末残高	3,425,808,905	3,494,846,905	△ 69,038,000
III 正味財産期末残高	4,059,091,033	4,144,559,033	△ 85,468,000

収支予算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[3,310,000]	[9,310,000]	[△ 6,000,000]
基本財産受取利息	1,744,000	7,744,000	△ 6,000,000
基本財産受取配当	1,566,000	1,566,000	0
特定資産運用益	[1,000]	[2,000]	[△ 1,000]
特定資産受取利息	1,000	2,000	△ 1,000
公益事業収益	[105,589,000]	[105,106,000]	[483,000]
展示事業収益	45,244,000	47,141,000	△ 1,897,000
調査研究事業収益	5,480,000	6,100,000	△ 620,000
普及事業収益	17,390,000	9,820,000	7,570,000
文庫事業収益	1,000,000	1,000,000	0
カレンダー一収益	28,375,000	30,945,000	△ 2,570,000
売店収益	8,100,000	10,100,000	△ 2,000,000
受取補助金等	[0]	[500,000]	[△ 500,000]
受取補助金その他	0	500,000	△ 500,000
受取寄付金	[249,038,000]	[69,038,000]	[180,000,000]
受取寄付金額	180,000,000	0	180,000,000
受取寄付金振替額	69,038,000	69,038,000	0
雑収	[51,000]	[54,000]	[△ 3,000]
受取利息	1,000	4,000	△ 3,000
雑収	50,000	50,000	0
経常収益計	357,989,000	184,010,000	173,979,000
(2) 経常費用			
事業費	[339,703,000]	[317,496,000]	[22,207,000]
役員報酬	6,504,000	5,881,000	623,000
臨時雇賃金	94,376,000	94,458,000	△ 82,000
退職給付費用	14,374,000	16,097,000	△ 1,723,000
福利厚生費	15,844,000	2,862,000	12,982,000
旅費	16,917,000	16,886,000	31,000
交通費	158,000	158,000	0
減価償却費	152,000	152,000	0
消耗什器備品費	102,000	102,000	0
消耗什器備品費	4,726,000	4,726,000	0
消耗什器備品費	69,549,000	69,288,000	261,000
消耗什器備品費	966,000	966,000	0
消耗什器備品費	1,013,000	1,013,000	0
消耗什器備品費	4,493,000	4,493,000	0
印刷製本費	3,000,000	2,631,000	369,000
印刷製本費	10,063,000	9,663,000	400,000
印刷製本費	7,800,000	7,800,000	0
印刷製本費	13,803,000	7,605,000	6,198,000
印刷製本費	896,000	896,000	0
印刷製本費	150,000	150,000	0
印刷製本費	4,420,000	420,000	4,000,000
印刷製本費	5,156,000	5,156,000	0
印刷製本費	14,360,000	14,360,000	0
印刷製本費	13,550,000	15,946,000	△ 2,396,000
印刷製本費	11,565,000	7,573,000	3,992,000
印刷製本費	5,600,000	5,900,000	△ 300,000
印刷製本費	935,000	935,000	0
印刷製本費	14,507,000	15,557,000	△ 1,050,000
印刷製本費	4,724,000	5,822,000	△ 1,098,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
管 理 費	[34,716,000]	[31,541,000]	[3,175,000]
役 員 報 酬	4,336,000	3,920,000	416,000
給 料 手 当	18,289,000	17,751,000	538,000
退 職 給 付 費	1,760,000	318,000	1,442,000
福 利 厚 生 費	2,801,000	2,795,000	6,000
会 社 交 際 費	142,000	142,000	0
旅 行 交 通 費	298,000	298,000	0
交 際 運 賃 費	210,000	210,000	0
通 信 運 賃 費	309,000	309,000	0
減 価 償 却 費	3,661,000	3,648,000	13,000
消 耗 什 器 備 品 費	34,000	34,000	0
消 耗 什 器 備 品 費	87,000	87,000	0
修 繕 繕 製 費	434,000	0	434,000
印 刷 製 本 費	50,000	50,000	0
光 熱 水 料 費	721,000	395,000	326,000
諸 謝 金 費	1,464,000	1,464,000	0
雑 費	120,000	120,000	0
経常費用計	374,419,000	349,037,000	25,382,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 16,430,000	△ 165,027,000	148,597,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 16,430,000	△ 165,027,000	148,597,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 16,430,000	△ 165,027,000	148,597,000
一般正味財産期首残高	649,712,128	814,739,128	△ 165,027,000
一般正味財産期末残高	633,282,128	649,712,128	△ 16,430,000
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	[△ 69,038,000]	[△ 69,038,000]	[0]
受 取 寄 付 金	△ 69,038,000	△ 69,038,000	0
当期指定正味財産増減額	△ 69,038,000	△ 69,038,000	0
指定正味財産期首残高	3,494,846,905	3,563,884,905	△ 69,038,000
指定正味財産期末残高	3,425,808,905	3,494,846,905	△ 69,038,000
III 正味財産期末残高	4,059,091,033	4,144,559,033	△ 85,468,000

◆資金調達および設備投資の書類

定款第7条に係る資金調達および設備投資の見込みについての注記

1. 受取寄附金

令和5年度については、文化・芸術の発信を通じた社会貢献事業に取り組む東急グループの方針に沿って、東急株式会社から下記のとおり寄附金の受領を見込んでいる。なお全額を一般寄附金として受入れたい。

寄附金(一般寄附金) 180,000 千円

2. 設備投資

令和5年度の設備投資については、厳しい事業環境を考慮して最大限抑制を図ることを前提として、下記のとおりといたしたい。

設備投資総額 3,000 千円

<主な設備投資項目>

展示ケースパッキン修理 1,500 千円

庭園境界付近配管修理 1,000 千円

その他

3. その他

令和5年度の美術品修復の予定は下記のとおりといたしたい。

修復費用総額 3,000 千円

<美術品修復項目>

「伊勢物語切 伝 藤原公任筆」

「重要文化財 青磁鳳凰耳瓶」

以上